

【平成 27 年度伊豆市一般会計補正予算（第 4 回）】

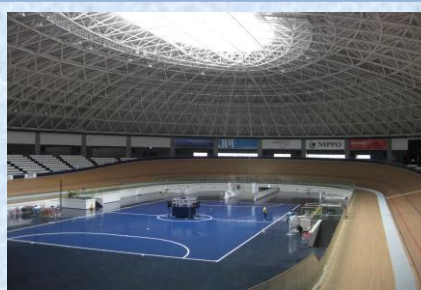
2 億 6,980 万円を追加し、歳入歳出予算の総額を 170 億 7,425 万円とする。

.....おもな議案.....

- 私立こども園・保育園・幼稚園の運営費負担金（3,574 万 4 千円）
- 生活保護受給者の増加に伴う扶助費（1 億 1,823 万円）
- 高齢者インフルエンザ・肺炎球菌予防接種委託料（619 万円）
- 着地型観光推進のDMO構築支援業務委託料（156 万円）
- 新佐野・雲金消防ポンプ置き場建設に係る委託料・工事費・解体費等（1,105 万円）
- 津波防災推進計画策定業務委託料（300 万円）

追加議案【平成 27 年度伊豆市一般会計補正予算（第 5 回）】

- 300 万円の追加予算
- 東京オリンピック・パラリンピック事業として、来年のリオデジャネイロ五輪のプレ大会視察のための職員 2 名分の派遣費用。
- 開催決定を周知するため、中伊豆・天城・土肥の 3 支所に掲出する懸垂幕、各地に設置するのぼり 100 本分の経費。



五輪自転車競技場伊豆ペロドーム

12 月議会

東京五輪自転車競技伊豆市開催決定

小長谷順二通信

Vol. 13 号

小長谷順二 後援会事務所
 伊豆市土肥 450-7
 TEL/FAX 0558(98)0400
<http://konagayajunji.web.fc2.com/>
 Email photo-ko@vcs.wbs.ne.jp

第 1 回議会報告会「みんなで語る会」開催

- 開かれた議会を目指して「みんなで語る会」を 11 月 5 日に開催。
- 議会改革特別委員会で策定中の伊豆市議会基本条例（案）の説明。
- 平成 26 年度決算概要報告を各委員会ごと審議内容を報告。
- 産業振興、防災・建設、福祉医療、子育て・教育のテーマで 4 箇所のテーブルに分かれてワークショップを開催。
- 多数の貴重なご意見を伺い、より良いまちづくりの実現のための貴重な市民の声として受け止めていきます。



みんなで語る会ワークショップ

平成 27 年 12 月現在のふるさと納税の状況

- 12 月定例会で 400 万円の返礼品予算計上。
- 12 月現在 666 件の寄付。
- 平成 27 年度ふるさと納税は 2,500 万円の寄付の見込み。
- 返礼品は、たけのこ母さんの贈り物、伊豆産コシヒカリ、サザエ、イセエビ、ひもの、ビール、ワインで“土肥のひもの”が一番人気。
- 返礼品の選定は今後、産業力強化会議準備会で検討をしていく予定。先進事例を参考に利用券等についても検討していく。



ふるさとチョイスホームページより

新ごみ焼却施設について

- 第 1 回新ごみ処理施設基本計画検討委員会を開催し、11 月 12 日に全ての用地取得及び物件補償の契約を完了。
- 平成 28 年度から平成 29 年度で生活環境影響調査を実施、その後平成 30 年度までに事業者を決定。
- 平成 31 年度から 33 年度で施設建設を行い、両市とも現行施設の老朽化が進んでいるので、平成 34 年の稼働に遅滞なきように万難を排する。



建設予定地伊豆市佐野地区

小長谷順二の一般質問

【1.Uターンの促進について】

質問

人口ビジョンで定めた、将来人口の目標を達成するためには、移住・定住の促進による、社会増の実現が極めて重要です。

今年の国土交通白書によると、「国民意識調査で地方への移住の希望を調査したところ、都市在住者の中でも、地方に縁のある人のほうが、縁のない人より地方への移住を希望していることや、都市在住の地方出身者が最も出身地に誇りを抱いている。」ということが明らかになっています。伊豆市の移住・定住促進対策における、Uターン促進の位置づけや、課題の洗い出し、そして取り組みの方針について伺います。

答弁

市内の情報を整理し、市の各部局で実施する定住に向けた子育て支援や、住環境の整備をはじめとするさまざまな情報に一元的に対応する移住定住情報のワンストップ窓口化を図るとともに、静岡県が東京有楽町に設置している「ふじの国に住み替える」静岡県移住相談センターと連携し首都圏に住む移住希望者への情報発信をより進めたいと思っておりますが、市内には有効求人倍率は1.22を超える職場があるにも関わらず、観光事業、病院、介護施設などの希望者は少なく市内製造業は労働者不足の状況です。給料がしっかりと上がっていく雇用の場を確保していくことと、田舎暮らしを望んでいる方のニーズに答えられるような空き家の提供がほとんどなく戦略的な情報発信が出来ていない状況ですので、その体制の強化を図って行きたいと考えております。

【2.収穫祭事業について】

質問

毎年恒例の「This 伊豆収穫祭&JAまつり伊豆」は、伊豆市合併から10年が経過し、行政主体のイベントの在り方について10年一区切りとして事業の見直しを検討した結果、これからは行政主体から市民・地域で頑張っている団体を応援していく方向となりました。4地区で開催した「ふれあいフェスタ in 六仙」、「きのこ祭り&JAまつり in 虹の郷」、「ずねゃあじゃ天城! 天城みのり祭り」、「とい山海フェア」への支援内容と主催者等との意見交換を踏まえた、来年度の伊豆市共催としての収穫祭のありかたや、支援内容について伺います。

答弁

静岡県「きのこ総合センター」が主体となっている「きのこ祭り」は行政的な事業なので性格が別ですが、中伊豆、天城、土肥地区の収穫祭は基本的には行政が主体になるべきではないと考えており、予算措置をしない共催というのも形式的にはあります。今回関与された方から、補助金が無く苦しいのでみんなで話し合い協力しあって非常に良いお祭りが出来たと言っていました。行政が人を出す、補助金を出すことが本当に支援なのかどうなのか?いずれにせよ4地区で一巡してから関係者と話し合い、情報を共有して改善すべき点は改善して行きたいと思っております。また新聞広告、FM I Sそしてチラシ等についても今年度の結果を検証して各実施主体の方々と相談をさせていただき、検討して行きたいと思っております。

12月6日、八木沢地区津波避難タワーの竣工式が行われました。津波避難タワーは、八木沢漁港から約150メートルの背後地に建設されました。コンクリートの強度を高めた特殊な鉄筋コンクリート（プレキャスト工法）構造で、高さ11メートル、海拔14メートル。避難床の面積は75平方メートルで、大人150人の収容が可能です。小土肥地区でも津波避難タワーが年内の完成を目標に建設中です。

南海トラフ地震で想定される土肥地区の最大津波高は10メートル、津波第一波は5分以内に沿岸に到着の予想です。5分で山まで逃げられない人は、この施設を信頼して使って欲しいのですが、有事に備え、自分で出来ることを日頃から心がけ、防災意識を高めていきましょう。



八木沢津波避難タワー



小土肥津波避難タワー

小長谷順二

検索

ブログ更新中!!

小長谷順二 第12回 市政報告会開催

平成28年1月13日(水) PM7時

伊豆市土肥支所 4F会議室